

問1 北海道に位置する人口50万人以上の都市であり、都道府県から委譲された権限に基づいて独自の都市運営を行っている都市の名称として正しいものはどれですか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)

1. 旭川市 2. 函館市 3. 釧路市 4. 札幌市

問2 日本の河川の特徴について述べた文のうち、日本最長の河川である信濃川に関する記述として適切なものはどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)

1. 長野県から新潟県へと流れ、下流域には稲作が盛んな越後平野を形成している。 2. 関東平野を流れる日本で最も流域面積が広い河川であり、別名「坂東太郎」と呼ばれる。 3. 北海道の中央部を流れる日本で3番目に長い河川であり、かつては大きく蛇行していた。 4. 山梨県から静岡県へと流れ、日本三大急流の一つに数えられるほど流れが速い。

問3 三重県桑名市周辺の2万5千分の1地形図において、東名阪自動車道という高速道路や、学校、寺院を含む集落が描かれています。ある地点から撮影された景観写真には、手前に広がるビニールハウス群と、その奥を左右に横切る高架の高速道路が写っています。この写真の撮影場所を地形図から特定する際、地図記号や土地利用の観点から判断する方法として最も適切なものはどれですか。 (2025年 兵庫公立入試 類似)

1. 地形図上で「田」や「畑」の記号が広がる平地を探し、その視線の先に高速道路の記号が位置する地点を照合する。 2. 高速道路と鉄道の地図記号は同一であるため、駅の記号から一定の距離にある広葉樹林の記号が密集する場所を探す。 3. 地形図上の等高線が密集している急傾斜地を探し、山間部にある「桑」の地図記号と写真のビニールハウスを照合する。 4. 寺院の地図記号が並ぶ歴史的町並みの中心部を特定し、そこから最も近いインターチェンジの方向を撮影地点とする。

問4 ある地域の地形図において、二地点を結ぶ直線上の土地の様子を確認したところ、途中で河川が流れており、その先には緩やかな丘陵地が広がっていました。この土地の起伏を断面図で表した場合、どのような特徴を持つ図が最も適切か。 (2015年 千葉県公立入試 類似)

1. 標高が一旦下がり、その後は緩やかに上昇して再び下がる起伏 2. 標高が一定のまま変化せず、水平な直線が続く起伏 3. 出発点から終着点まで、一度も下がることなく急激に上昇し続ける起伏 4. 高い標高から始まり、一度も上がることなく低い場所へ一定の割合で下がり続ける起伏

問5 地形図上で「浸水予想地域」が網掛けで示されている地域において、避難場所へ向かう経路を検討しています。河川沿いを通る距離の長い経路よりも、河川から遠ざかりつつ、網掛けの範囲を最短距離で通り抜ける経路の方が避難の安全性が高いとされる理由として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 河川の増水による氾濫に巻き込まれる危険性を下げ、かつ危険な区域に滞在する時間を短くできるため 2. 河川の近くは地盤が緩く、地震による家屋倒壊に巻き込まれる可能性が非常に高いため 3. 浸水予想地域内は標高が低いいため、最短距離で移動するよりも平坦な河川沿いを進むほうが体力の消耗を抑えられるため 4. 最短距離の経路であれば、避難途中で浸水が始まったとしても、水が引くのを待つ場所を確保しやすいため

問6 雨温図において、年間の降水量が千五百ミリメートルを下回り、月ごとの降水量の変化も年間を通じて緩やかであるという特徴を持つ都市として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 埼玉公立入試 類似)

1. 岐阜県にある高山市 2. 岡山県にある岡山市 3. 三重県にある津市 4. 高知県にある高知市

問7 河川の近くに住んでいる中学生が、地域の防災について話し合っています。大雨による浸水被害を想定した、日頃からの具体的な備えとして最も適切なものはどれか。 (2018年 佐賀公立入試 類似)

1. ハザードマップを活用して被害予測範囲や避難場所、避難経路を事前に確認し、非常食や飲料水を準備しておく。 2. 河川には高い堤防が整備されているため、浸水のリスクはないと考え、避難場所の確認よりも家財道具の保護を優先する。 3. 実際に災害が発生し、避難勧告などが出された後に、インターネットやテレビで初めて避難場所の所在地を検索する。 4. 避難場所は自治体が指定しているため、事前の確認は行わずに、災害時には近くにある最も大きな公共施設へ向かう。

問8 山地が海に沈む、あるいは海面が上昇することによって、山あいの谷に海水が入り込み、狭い湾と岬が鋸の歯のように複雑に入り組んだ形となった海岸地形を何というか、最も適切な名称を選びなさい。 (2021年 埼玉県公立入試 類似)

1. リアス海岸 2. 海岸段丘 3. 砂州 4. 干拓地

答え合わせ・解説

問1	答え 4 札幌市	札幌市は北海道唯一の政令指定都市であり、人口要件である50万人を大きく上回る規模を有しています。この制度により、札幌市は都市計画などの分野で北海道（道）の判断を待たずに独自の決定を行うことができる権限を持っています。
問2	答え 1 長野県から新潟県へと流れ、下流域には稲作が盛んな越後平野を形成している。	信濃川は日本一の長さを誇る河川で、長野県と新潟県をまたいで流れます。その豊かな水量は下流の越後平野における大規模な米作りに貢献しています。流域面積が最大なのは利根川であり、信濃川は「長さ」において日本一であるという違いを正確に理解しておく必要があります。
問3	答え 1 地形図上で「田」や「畑」の記号が広がる平地を探し、その視線の先に高速道路の記号が位置する地点を照合する。	地形図の読解において、ビニールハウスが広がる景観は、地図記号では「田」や「畑」として示される土地利用と対応します。これに加えて、特徴的な構造物である高速道路（地形図では道路の太さや種類で判別可能）との位置関係や、写真に写る視界の方向（方位）を地形図上の記号配置と照らし合わせることで、撮影地点を正確に特定することができます。高速道路を鉄道と誤認しないことや、平坦な土地利用記号を読み取ることが重要です。
問4	答え 1 標高が一旦下がり、その後は緩やかに上昇して再び下がる起伏	河川が流れている場所は、周辺の土地と比較して標高が低くなるため、断面図上では下方向に凹んだ形になります。また、丘陵地は小高い山のような地形で、標高が緩やかに上昇した後に再び下降する凸型の起伏として描かれます。地形図の等高線から標高の変化を正しく読み取ることが重要です。
問5	答え 1 河川の増水による氾濫に巻き込まれる危険性を下げ、かつ危険な区域に滞在する時間を短くできるため	洪水時の避難では、水害の発生源である河川から速やかに離れることが鉄則です。河川沿いは堤防の決壊や越水のリスクが最も高いため、避難経路からは除外すべきです。また、ハザードマップ等で示される浸水予想地域の中にいること自体がリスクとなるため、その範囲の「外」へ出るまでの距離が短い経路を選ぶことで、被災する確率を最小限に抑えることができます。
問6	答え 2 岡山県にある岡山市	中国山地と四国山地に挟まれた瀬戸内の地域は、夏と冬の季節風がそれぞれの山地を越える際に水分を失うため、一年を通じて降水量が少なく晴天の日が多いことが特徴です。選択肢の中で岡山市はこの気候区に属します。一方、高山市は中央高地の気候、津市や高知市は太平洋側の気候に分類されます。
問7	答え 1 ハザードマップを活用して被害予測範囲や避難場所、避難経路を事前に確認し、非常食や飲料水を準備しておく。	自然災害による被害を最小限に抑えるためには、行政が配布しているハザードマップを確認し、自分の住む場所の危険度や安全な避難経路を把握しておくことが重要です。また、ライフラインの遮断を想定し、非常食や飲料水の備蓄といった家庭での自助努力も求められます。災害が起きてから避難場所を探したり、堤防があるからと過信したりすることは、適切な避難行動を妨げる原因となります。
問8	答え 1 リアス海岸	陸地の沈降や海面上昇によって、元々の起伏の激しい地形が海に浸かることで形成されます。この地形は海岸線が非常に長くなるのが特徴で、福井県の若狭湾や三重県の志摩半島、岩手県の三陸海岸南部などが代表的な例として挙げられます。波が静かになりやすいため、養殖業の適地としても知られています。